

# 群馬県議会議員 入内島 道隆 県政報告

## VOICE OF GUNMA Vol.15

### 前回一般質問の補足

今回で VOICE も 15 号となります。人口問題をテーマにした前号までの質問でしたが、時間の都合で知事とのやりとりが行えなかった質問を解説してみたいと思っています。

### ジェンダー平等について

『スウェーデンはジェンダー平等の意識が浸透している国として知られ、男女均等社会の典型とされていますが、もともとは日本と似た慣習の社会であり、女性の地位は決して高くありませんでした。

こんなエピソードがあります。職場でお茶汲みをお願いすると「私はピーガではない」という返事が返ってきたそうです。ピーガ (piga) とは農奴に似た女性使用人のことでもあります。「私はあなたの使用人ではない」ということです。

女性の社会進出は出生率にマイナスに働くというのが過去の見解でしたが、家族政策の実施により、女性の社会進出と出生率がプラスの関係へと変化したというのが実態です。また、そうなるような家族政策が重要であります。つまり女性の地位向上が全てを健全にすると考えますが、知事の考えをお聞かせください、と言う質問です。県の部長級の管理職の女性登用率が高いことから、知事も同じ考えだろうと思います。

スウェーデンにおいては例えば議員の数にしても男女比はほぼ同数です。群馬県議会議員では定数 50 人の時に女性議員 7 名で女性比率は 14% でした (2023 年 4 月データ：現在は欠員が出ておりますので多少違いがあります)。そして全国平均でも 14.5% といった状況です。



女性議員の比率で見ると、高い順から

①東京都	31.1%	出生率	1.04	(2022 年)
②香川県	22.0%		1.45	
③岡山県	21.8%		1.39	
④京都府	21.7%		1.18	
⑤鹿児島県	21.6%		1.54	

となっており、ここまでが 20% を超えております。ついでに、出生率も調べてみましたが、特に女性議員の数と出生率との相関関係は認められませんでした。

しかし、日本憲政史上初の女性総理大臣が誕生したことからもわかるように、ようやく日本でも女性の力が解放されつつあると考えます。税額控除の問題もそうですが、女性の労働力が解放されなければ、日本という国の真の実力は発揮できないところまで来ています。女性の潜在力を解き放つことがこれからの最重要な課題であると考え、この質問を考えました。

### 乳児教育への考え方について

ノーベル経済学賞を受賞しているジェームズ・ヘックマンという人が「幼児教育の経済学」という著書の中で、『ふれあいが足りないと子の脳は萎縮する』と言っています。親の愛情が子供のその後の成長に大きく影響していることを研究されました。このことを受けて少なくとも 0 歳児の期間は親と長い時間一緒にいるべきだと思います。

スウェーデンでは 0 歳児は保育所では受け入れていません。子供にとって必要なのは母親の愛情だからです。(フランスモデルを採用しなかったわけは 0 歳から入所可能)

知事の乳児教育についての考えをお聞かせくださいという質問です。

考えてみますと、親子といっても一緒に過ごせる時間は意外と短いものです。私も子供が小さい時に町長という仕事に就いたため、子供との時間がほとんどありませんでした。町のために仕事をさせていただいたことには本当に感謝しておりますが、子供との時間も意識して作るべきであったと悔やんでおります。そう言ったこともあり、赤ちゃんの時は親と触れ合える時間がとても大切ではないかと思うのです。

そういう中でジェームズ・ヘックマン博士の研究は幼児教育の重要性とその後の人生への影響を解明しており、こう言った知見を実際の政治に反映していくことが必要だと思うのです。

### 学歴と出生率の関係について

まず、日本とスウェーデンの教育について考察してみたいと思います。

スウェーデンでの教育の特徴

基礎教育は日本と同じ 9 年間 3・3・3 で成績表はありません。ただし 8 年目から成績を出します。それは高校進学のため、体育や音楽などの科目も含め平均点で進路が決まります。多面的に評価するということなのです。

高校は職業教育の色彩が半ばし、必ずしも大学進学を前提としていません。高校卒業後は就職する割合が高いようです。

裏面に続く



また、大学進学も高校3年間の成績で決まります。進学率は2割程度ですが、最終的には4割近くになります。それは一旦社会に出てから入学というUターン学生が多いからです。入学は容易ですが、卒業はむずかしく、キャンパスライフを楽しむ雰囲気は大学にはありません。あくまで高度な専門知識を習得するためとされています。

日本の教育は小学校から中学校、高校と内容こそ多少高度になっていますが、同じことの繰り返しで、要は受験のための勉強。しかも、大学でも教養課程は同じことの繰り返しです。ここはそろそろ変えていくべきです。つまり、大学はあくまで高度な知識を習得する場所であり、大学生活を楽しむ場ではないという高度な学習カリキュラムにする。

しかし、文部科学省がこれを変えるとは思えない。だとすれば、就職の際に学歴を考慮しない、入社してからの働きようで決まるという社会に変えていくことが理にかなっていると思いますし、また現実はそのようになり始めています。

そして、大学進学よりも生涯学習の環境整備を推進する。いつでも学び直しのできる、社会に出て



から必要な知識を習得できる環境を整える。さらに趣味的な学習環境もあれば人生が楽しくなります。

スウェーデンでは高校卒業と同時に働き出す人の割合が高いため、社会に飛び込む年齢が早く、経済的自立が、少子化の原因の一つである晩婚化も予防し、労働所得は消費を生み、経済成長にも寄与するわけです。学歴で多くが決まるような仕組みは健全ではありません。

この教育に対する日本とスウェーデンのスタンスの違いを再考することが日本においても必要あると思いますが、知事はどう思われますか?と云った内容の質問です。

学歴社会というのは、要は東京大学を出ている人が最優先される社会です。しかし、人生は学校を卒業してから始まるわけです。過去の学習量よりも現在までの学習量で、その人の教養は決定されます。

仕事においても同じことで、どれだけ工夫して仕事しているかで、仕事の成果は決まってきます。そこを評価すれば良い話だと思うのです。なるべく早く社会に出て活躍できるような環境こそ今の日本には大切だと思うのです。実際、私の知人で活躍している人は高校卒業して働き始め、その後、頭角をあらわして成功している人が大勢います。

社会を変えないことは、前進もないことにつながります。時代の変化に合わせて社会も変化していく、それが前進につながると思うのです。日本の閉塞感はそう言ったところにあるのではないかと思います。

## 次回の一般質問

以上が前回までの質問となりますが、早いもので、2月27日10時から県議会での一般質問の機会をいただきました。今回は少し視点を変えて質問いたします。

県土整備部長に  
建設土木業の地域での果たす役割と今後の県土整備行政について

環境森林局長に  
林業による地域経済の循環方法について

危機管理監に  
防災へりはるなの事故に関するその後の対応について

それぞれ質問してみたいと思います。

また、県が最重点事項としているデジタル・クリエイティブに関して、クリエイティブ産業という少し広い視点から私の見解との整合性を確認してみたいと思っています。お時間のある方は群馬テレビをぜひご覧ください。



こちらのQRコードより今回を含め、今までの入内島道隆の一般質問の動画がご覧になれます。是非ご視聴ください!



# VOICE OF GUNMA

編集・発行責任者 群馬県議会議員 入内島 道隆 / 〒377-0601 群馬県吾妻郡中之条町四万 3838 湯元 四萬館内

電話：080-9469-2003 / WEBサイト：<https://iriuchijima.jp/>